

〈令和3年度〉ミライカナエル活動サポート事業 ステップアップ支援コース

団体名	特定非営利活動法人 湘南まぜこぜ計画
事業名	10代と本音トーク☆性についての出前授業
補助金額	197,000円

事業の目的

すべての子どもがDV被害や予定外妊娠の当事者にならないために、自身と相手の性について大切にすること、まずは性的同意、避妊の知識等の学べる機会を、できれば中学校卒業までに、もしくは高校生活の早い時期に広く10代に対して提供すること

事業の内容と成果・効果

＜事業の経過と内容＞

- ・4月講師を招いての講演会開催以降、性について10代が自分事として学べる教材作りに向けて内容の検討を開始。
- ・8月には一本の動画にまとめる形ではなく、10代が直接授業をするスタイルに当初の予定を変更。それに応じての教材作り、討議に想定以上の時間を要する。年末前に教材の原形が完成。
- ・年明けから模擬授業の実施と教材の修正作業を重ね、市内中学校へ行った案内の送付から何人かの養護教員、PTAなどが1月22日、25日の模擬授業に参加。そこでの好評価から更に学校内での授業実施を追求するが、PTA主催で中学一校での模擬授業を2月7日に果たせただけで年度末を迎えた。

＜成果・効果＞

高校生が中心となって繰り返し教材内容を討議する過程を通して、同じ10代に伝える主体が形成されていくこととなり、一本の動画を作る以上に直接10代に伝わるであろう出前授業のスタイルが確立した。また、高校生だけでなく出前授業に臨むチームの大人たちにとっても伝える責任を自覚し、役割が明確になっていった。実際に中学生への性教育を担っている養護教員の模擬授業を通しての感想や意見により、教材として現場に求められている内容であることを確信することができた半面、中学校管理職の下で授業を実施にまで持っていく事の困難を改めて認識できた。



(写真右)
模擬授業を中学校で実施したときのチラシ

(写真左)
作成した教材を用いて模擬授業を行う高校生

事業を実施しての課題

夏休みまでは高校3年生が中心となって全体を牽引してくれたが、受験を控え、途中で涙の撤回。いざ授業に臨もうとすると平日の日中に時間を作れる条件のある通信制の高校生に主体は限られてしまった。学校側にしてみると学習指導要領との関係でPTAへの説明、責任において積極的になりにくく、PTA側からの要望という手順で臨むことが有効だと学習できたが、PTAにおいてもコロナ禍で当初計画に無い模擬授業を設定してもらうことが困難であった。